

(様式1)

令和元年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	根気強く実践し、心豊かに、たくましく生き抜く人間を育成する。 1 進んで学習に取り組む子 2 仲良く助け合う子 3 進んで体を鍛える子
(2) 現状と課題	(現状)在籍児童生徒数は微増傾向、教職員数は昨年度と比較すると1名減である。特別支援学校としては小規模校ではあるが、地域における特別支援教育のセンター的機能を果たしながら視覚障害を主とした教育の充実に取り組んでいる。経験豊富な教員を中心に、視覚障害教育の専門性を継承していくことが課題となっている。 (課題)①授業の充実(分かる授業、基礎・基本の定着) ②職員の指導力・専門性(教科指導及び視覚障害教育)の向上 ③安全・安心な教育的環境づくり(いじめの未然防止、安全な給食の実施と食育推進)④地域の要請に応え貢献する学校づくり(地域の中心としての教育相談活動の充実、研修等地域支援の推進)
(3) 重点目標	1 授業の充実 2 指導力・専門性の向上 3 安全・安心な教育的環境づくり 4 地域の要請に応え貢献する学校づくり
(4) 結果の公表	保護者、教職員には結果を書面で配布し保護者集会、職員会議で説明した。その他、学校のホームページで公表の予定。

学校整理番号	特2
学校名	青森県立八戸盲学校
対象障害種別	視覚

自己評価実施日	令和元年12月6日(金)
学校関係者評価実施日	令和2年2月13日(木)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員4名、PTA会長、後援会会長 校長、教頭、事務長、教務主任 合計10名

自己評価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	授業の充実	・各教科等の基礎的・基本的な学習内容の定着 ・視覚補助具及び情報機器の効果的な活用など視覚障害の専門性を生かした教科指導の充実 ・創作的、体験的活動による実践的な知識・技能の定着 ・話し合い・発表活動による表現力の向上 ・道徳教育、キャリア教育の充実 ・居住地校交流を含む交流及び共同学習による集団学習機会保障の推進	・青森県学校給食献立コンクールや「あおもりをうたおう」などに出場する機会を設定することで、生徒同士の話し合い活動や発表、受賞の機会を経験し、表現力や自己肯定感を高めることに繋がった。 ・視覚補助具の活用については、今年度から活用し始めた生徒がおり、本人が選択して活用できるように指導した。 ・居住地校交流を希望・実施した児童生徒は13名中7名と昨年度より増え、集団学習機会を保障することができた。	A	・自立・就労に向けて体験的な学習が充実しており、地域の力を活用していることも良いと感じた。 ・学校だけで体験できないことが交流先で体験できるなど、居住地校交流が素晴らしいものになっている。 ・卒業生で活躍している天摩選手の話聞く機会を設けるなど、普通の学習ではできない体験をできているのが良いと思う。社会資源を上手く活用するとよい。 ・授業も大事だが、子供たちにいろいろなことを経験させることも必要だと思うので、行事の精選については、しっかりと話し合っほしい。	・職場体験については、生徒の実態に合わせて適切な体験先を選定し、中学部生徒全員が体験できるように進めていく。 ・引き続き各教科の基礎・基本の定着を図るとともに、必要に応じて社会資源を活用しながら授業を充実させていきたい。 ・居住地校交流については、交流校への送迎等保護者の協力が不可欠であるため次年度も保護者と連携しながら進め、集団学習の機会の保障を推進していく。
2	指導力・専門性の向上	・研究授業、事例研究等による実践的指導力の向上 ・PDCAサイクルに基づく授業改善 ・視覚障害教育専門性継承のため校内研修の実施及び北東北3県の盲学校とのネットワークによる情報の共有と専門性の継承 ・寄宿舎の生活指導の充実 ・発達課題や指導方法等についての共通理解に基づく指導の充実	・本校を会場に青森県特別支援教育研究会視覚障害教育部会が行われた。授業公開するとともに分科会で授業について話し合い、研鑽を深めることができた。 ・視覚障害教育専門性継承のため、校内で学習会を実施した。	A	・指導力・専門性向上のため継続して研修を進めていくとよい。	・次年度も、小中学校で行われる研修に積極的に参加を促して情報収集し、教科の指導力向上を図りたい。 ・視覚障害教育に関しては、他の盲学校の研修会に参加して情報を共有したり、校内で学習会を計画するなどして引き続き専門性の向上に努めたい。 ・授業を基にした授業検討会、指導に生かせる研修・研究を行っていく。

3	安全・安心な教育的環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ハートフルリーダーを中心とした児童生徒への心の教育やいじめ防止等の対策(いじめの未然防止、早期発見及び対処)と職員との連携した指導の推進 ・児童生徒に対する情報教育、スマートフォン等を利用する際の適切な使用方法の指導など情報モラル教育の充実 ・児童生徒に対する安全管理の充実と防災教育の推進 ・不審者対応訓練、嘔吐物処理訓練など多様な職員訓練の充実と校内環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関するアンケートを定期的を実施し、気になる内容が記載されている場合には、すぐに面談して対処し、職員間で共通理解を図って指導にあたった。 ・情報モラル教育については、携帯電話会社より講師を招き、携帯電話やスマホを適切に使うためのルールやマナーについて理解を深めることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめや体罰は、面談やアンケートだけではなく普段の様子や行動を観察すること、職員で共通理解してすすめていくことが大切である。また、嫌なことを言われたり、叩かれたりしたら相手が嫌な思いをすることを小さい頃から伝えていく必要がある。 ・児童生徒の評価を見たり、学校に訪問した時の様子を見ると、先生方との良い関係を築くことができていると思う。一方で担任がやるべきことが多いと感じるので、担任のフォローをすることで、後に子どもたちに還元されると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止については、ハートフルリーダーを中心にいじめに対する意識を高めていくとともに、保護者、教職員が情報共有し、共通理解することを大切にする。また、いじめだけではなく、いじめにつながるような行動についても、防止するように努め、気になる事案については継続して様子観察していくことが必要である。いじめ学習会では、グループに分かれて学習をするなど、発達段階に合わせた内容で計画し、段階的に内容を深めていくことが考えられる。 ・教職員の声を聞き、ストレスへの対応を行っていくことで、子供たちが安心できる環境づくりに努めていきたい。
4	地域の要請に応え貢献する学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・八戸盲聾学校協働相談支援センターでの教育相談活動と理解啓発活動の充実、サテライト教室の運営、県立盲学校や県視覚障害者情報センターと連携した視覚障害者支援への取り組みの推進 ・地域に開かれた学校として県立学校公開講座「視覚障害入門講座」、愛・EYEライブラリーイン八戸の開催 ・災害における地域及び市との連携、備蓄及び施設設備の充実と校内体制の整備 ・地域に向けた情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・十和田市、三沢市、南部町でサテライト教室を運営した。今年度ニーズの多かった十和田市の回数を増やして対応できた。 ・愛・Eyeライブラリーでは、県立盲学校とお互いに協力しながら実施することができた。 ・地域の小学校8校にゲストティーチャーとして出向き、点字や歩行、見え方など視覚障害に関する授業を行うことができ、好評であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の件数が多いと感じた。本校は児童生徒数は少ないものの地域から求められていることがわかった。今後も地域のニーズに応えて頑張ってもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も県南地域の視覚障害に関する教育相談などセンター的役割を果たしていく。また、ゲストティーチャーやサテライト教室の運営だけでなく、地域の選挙で使用する点字による候補者名簿の作成など、視覚障害のある成人の社会参加に協力している。地域によって今後も依頼されることが予想されるため、教員間で専門性を継承し、地域に貢献する学校づくりを心がけたい。
(11) 総括		<ul style="list-style-type: none"> ・集計結果から、保護者全体評価平均3.71で昨年度とほぼ同じ(差は0.04ポイント)であり、教職員の自己評価全体平均は3.67で昨年度より0.1ポイント上昇している。どちらも達成度Aと高い評価となっている。 ・昨年度やや自己評価の低かった「指導力・専門性の向上」については、点字プリンターや視覚補助具の活用に関する職員対象の学習会を実施して改善に向けて取り組んだところ、平均値が上昇し、改善できた。次年度も学習会を実施して、視覚障害教育に関する学校全体の専門性を維持したいと考える。同じく、昨年度保護者評価の低かった「進路指導」の項目では、保護者集会の際に進路指導主事が進路について話をする機会を設定したり、保護者を対象に障害者就業・生活支援センター見学を計画したりして改善に取り組んだ所、保護者の平均値が上昇した。 ・保護者アンケートにおいては「諸費や教材費、就学奨励費などの説明」及び「授業参観」に関する項目の評価が低かったため、原因及び改善策について学校全体で検討したことを次年度の計画に生かして改善を図りたい。 ・児童生徒のアンケートより、「学校が好きだ」の項目が昨年度より上昇していること、「先生は自分の話を聞いてくれる」の項目が上位にあることを考え合わせると、学級担任や寄宿舎指導員との良好な関係がうかがえる。これからも全職員一丸となって児童生徒、保護者、地域に信頼される学校づくりを心掛けたい。 				